

安芸高田市まちづくり助成金成果報告書

団体名：

やちよ食農キッズクラブ

団体紹介：

コミュニティーハウス「茶み菜（チャイナ）」を拠点に集まった地域内外の子どもたちが、食・農・自然の好循環を実践する体験型活動グループです。

主な活動内容は：

- 【有機再生農食体験】地域に密着した有機再生農業体験
- 【参加型キッズ食堂】子供たちが参画する職業体験型食堂
- 【体験学習寺子屋】暮らしの智慧を身につける実践学習

活動状況・実績：

当クラブは、昨年の活動を継続し、今年度もレギュラーキッズメンバーの親子達が一丸となり、合宿をしながら食堂公開イベントを企画・準備し、計3回の地域オープンイベントを開催しました。

季節や伝統行事に合わせたテーマを設定し、7月には「食農体験」、10月には「チャリティー中華食堂」、2月には「春節フェア」を実施しました。



実施効果：

地域の小学校や保育園へイベントチラシを配布したところ、多くの親子連れから参加のお申し込みをいただきました。参加した地域内外の子どもたちは、料理体験やリアルなゲームを通して自然と打ち解け、あっという間に仲良しに。「帰りたくない！」「泊まりたい！」と話す子どももいるほど、この場を心から楽しんでくれている様子が見られました。

レギュラーメンバーやスタッフに加え、外部講師のとも和気あいあいとした雰囲気の中で活動が進みました。年齢や地域を越えて集まった参加者たちが、まるで大家族のような温かな交流を育み、会場は楽しい笑顔に包まれていました。

合宿中は、子どもたちが自主的にお風呂掃除やお湯の準備、布団の出し入れなどを行い、昨年よりも成長した姿が随所に見られました。寝泊まりをともにする濃密な時間を通して深い友情が育まれ、自然と協力し合う中で、素晴らしいチームワークも生まれました。

また、部活動で全日程に参加できないメンバーも「みんなに会いたい」「雰囲気だけでも味わいたい」と訪れたり、活動後にわざわざ片付けに駆けつける子もいました。それぞれが「自分の居場所」としてこのクラブに関わり、できることを主体的に考え行動している姿が印象的でした。

工夫したこと：

レギュラーメンバーの中には、保護者の仕事の都合で現在は上海で暮らしている親子もいます。今年度の合宿やイベントは、日本への一時帰国のタイミングに合わせて開催し、帰国のたびにみんなと再会できることを、親子ともにとっても楽しみにしてくれています。「まるで帰る家があるような気持ちになる」と話してくれた言葉が、とても印象的でした。

このような再会の場は、ほかの子どもたちにとっても、海外の暮らしや文化に触れるきっかけとなり、小さな国際交流の機会にもなっています。

キッズクラブの活動を通して、参加された親子が心の充電をし、安心できる場で豊かな時間を過ごすことで、日常に戻ってからもその余韻が続き、嬉しい変化を感じているという声もいただいています。

こうした一人ひとりの成長やつながりを目の当たりにすることが、私たちスタッフにとっても大きな励みとなっています。

課題や展望：

・当クラブは2年間を通して、レギュラーメンバーにとって、安心して楽しめる場として成長してきました。しかし、活動の範囲を広げるために、新規参加者が参加しやすい環境を整える必要があります。特に、初めて参加する子どもたちが気軽に来やすく、すぐに馴染めるようなサポート体制を充実させたいと考えています。

・今後の展望として、野外キャンプのようなアウトドア活動を取り入れ、自然の中での学びや冒険を通じて、さらに深い交流や経験を提供していきたいと思っています。キャンプでは、自然と触れ合いながら協力し合う大切さを学び、普段の活動では感じられない新たな絆が生まれることを期待しています。

さらに、キャンプを通して、地域を越えた交流や多様な文化を体験する機会を提供できると考えています。そのためには、イベントやアウトドア活動の計画をしっかりと組み立て、安全面や運営体制の強化が求められます。

今後は、アウトドア活動を積極的に取り入れ、子どもたちが自然の中で成長し、学び合いながらさらに豊かな経験ができる場を作りたいと考えています。